

東駐車場を歩くと、太田町出身の彫刻家・佐光庸行さんが1991年に制作した《水辺の風景》という石の彫刻が見えます。佐光さんは国際的に活躍し、美濃加茂彫刻シンポジウムの開催で核となった重要な作家です。

作品はもともと神奈川県にありました。昨年の春、設置先の施設の閉館に伴い作品を処分する旨の連絡が入りました。移設には費用が多くかかります。そこで佐光さんと親交の深かった人々が動き出しました。「佐光庸行 彫刻『水辺の風景』を美濃加茂に」発起人会を立ち上げ寄附を募った結果、約200人から志が寄せられ、移設が実現したのです。

20年後の里帰りを果たした彫刻は、森の自然に溶け込んでいます。